

各会議の報告

(1)文京区地域移行支援検討会議

(2)文京区精神障害者支援機関実務者連絡会

(3)文京区地域生活安定化会議

地域精神保健福祉連絡協議会を活用

それぞれの会議から
課題を抽出

地域移行支援検討会議

精神障害者支援機関実務者連絡会

地域生活安定化会議

<会議体としての「協議の場」>

保健・医療を起点とした
基盤整備の検討

統合した
地域づくり
の検討

福祉を起点とした
基盤整備の検討

地域基盤の整備
の軸

支援体制の整備
の軸

個別支援の検討
の軸

- ・保健・医療に係る資源等の活用・開発
- ・地域の実情に応じた施策・制度等の検討

- ・保健・医療提供体制の構築
- ・体制構築に向けた課題抽出

- ・個別課題解決
- ・個別ケースから見える地域課題の抽出

- ・障害福祉サービスに係る資源等の活用・開発
- ・地域の実情に応じた施策・制度等の検討

- ・障害福祉サービスの提供体制の構築
- ・体制構築に向けた課題抽出

- ・個別課題解決
- ・個別ケースから見える地域課題の抽出

「精神障害にも対応した地域包括ケアシステム」の構築に向けた議論の統合

(1)文京区地域移行支援検討会議

<目的>

効果的な支援体制の構築に向けて協議、情報交換、課題の調整及び検討等を行うことで関係機関の連携を深め、入院者の地域生活への移行を促進するための取り組みを強化する。

<概要>

福祉・保健に関わる行政機関、地域移行に関する福祉事業所等が参加する、「にも包括」構築の**地域基盤の整備の軸**にあたる会議体。

<R7年度実績>

(第1回)R7.5.16	33名参加
(第2回)R7.8.8	23名参加
(第3回)R7.11.14	23名参加
(第4回)R8.2.13	15名参加

※第1回で東京武蔵野病院・コレット美喜氏による「医療機関からみた地域移行」の講演を実施

<地域移行を支える円滑な連携体制を考える>

1. 多機関連携の強化

- ・ 医療機関との連携
- ・ 高齢分野との連携

2. 退院意欲の喚起と不安解消

- ・ 病状や家族状況など個別性に配慮した支援
- ・ ピアサポーターへの相談機会提供
- ・ 特定相談・一般相談連携機能強化支援事業の活用

3. 居住支援と生活スキルの向上

- ・ 居住課題の解消
- ・ 生活スキルの評価と実践
(都GH活用型ショートステイ事業、地域生活体験事業の利用)

4. 継続的な地域支援体制の構築

- ・ 医療機関、地域支援者の顔の見える関係作り

(2)文京区精神障害者支援機関実務者連絡会

<目的>

区内在住の精神障害者が地域に定着して自立した生活を送ることを目指し、区内関係機関の連携及び職務遂行能力の向上を図る。

<概要>

福祉事業者、医療機関、訪問看護師、行政機関等が参加する、「にも包括」構築の
支援体制の整備の軸にあたる会議体

<R7年度実績>

第1回 :R7.10.3	23名参加	テーマ：ピアサポート
第2回 :R7.11.28	24名参加	テーマ：意思決定支援
第3回 :R8.2.19	20名参加	テーマ：オープンダイアログ手法を用いたワークショップ

令和8年度 第1回 精神障害者支援機関実務者連絡会

みなさんはどのように対応されていますか？

支援現場で出会う 「恋愛」と「性」の悩み

安心して話せる関係性について考えよう



- ✓ 交際希望や交際相手との将来
- ✓ 内服薬での副作用による性機能の不安、避妊
- ✓ マッチングアプリやSNSでの出会いや付き合い方 など

講師 木村 利信 氏

大学卒業後にエンジニアになるが、福祉施設でのパソコンボランティアをきっかけに障害福祉の道に進む。日本社会事業大学社会福祉士科通信課程卒業後、様々な障害福祉施設の設立に尽力。株式会社TENGの社長に誘われて、TENG社初の福祉施設ableFACTORYを設立して初代施設長に就任。退職後、2025年8月1日に就労継続支援B型事業所スタジオワークデザインを設立。これまでの障害福祉活動を教育委員会から評価されて、特別支援学校の外部専門員として教育活動にも従事している。

日時 令和 8 年 6 月 26 日 金 18時30分～20時30分

場所 文京区役所 3階北側
シビックホール会議室1・2
(3階保健サービスセンターの横にあります)



対象 文京区内の精神障害者支援機関・医療機関
関係者やその他支援職の方

お問い合わせ・詳細・申込はこちら

文京区予防対策課精神保健担当
☎ 03-5803-1847

右記QRコードから
お申込みください。

文京区障害者基幹相談支援センター
☎ 03-5940-2903

締切：令和8年6月24日



<R8年度第1回開催内容>

【テーマ】 支援現場で出会う「恋愛」と「性」の悩み
～安心して話せる関係性について考える～

【講師】 木村 利信氏

スタジオワークデザイン施設長

【参加者】 22名(行政機関、福祉事業所)

<今年度の予定>

第2回：令和8年10月頃

「(仮)精神障害者の住まいの課題について」

第3回：令和9年を予定

「事例検討(タイトル未定)」

<課題>

地域支援者が抱える多様な課題に対する網羅性

(3)文京区地域生活安定化会議

<目的>

区内に居住する精神障害者の地域での安定した生活を図るため、精神科未治療者や治療中断の可能性が高い者、通常の障害福祉サービスの利用ができない者等を対象とし、自宅への訪問や受診同行を行う。

<概要>

地域生活安定化支援事業を担う事業所、行政機関、スーパーバイズとして精神科医が参加し、実績報告と個別支援の検討を行う、「にも包括」構築の
個別支援の検討の軸にあたる会議体

<R7年度実績>

・精神障害者地域生活安定化事業

(利用実績)利用者延べ16人、延べ支援回数は2,534回

⇒会議体を年4回開催して実績報告、個別支援の検討等を実施

＜R7年度検討事例＞

事例1：地域移行から日中活動への接続による、地域生活の定着

長期入院後に自宅へ退院し、単身生活を開始したケース。地域生活安定化事業の利用により、定期受診を継続。徐々に他者と交わる居場所への参加に繋がっている。

➤医療継続に加え、居場所に繋がることで社会的孤立を防ぎ、地域定着を維持

事例2：受診同行終了後、緩やかな見守りへ移行

利用者からの要望により、受診同行は終了の方針となったケース。同行終了後は、自力で通院と服薬、支援者への受診報告が滞りなくできている。地域生活安定化事業は見守りのために、1年間継続予定。

➤本人の意向を尊重しながら、段階的に自立を促すためのセーフティネットとして機能

＜課題＞

- ・地域定着する上で困難事例が集中するため、対応が長期化しやすい
- ・地域の支援体制充実に伴い、地域生活安定化事業を地域の実情へどのように最適化していくか